

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1176500872		
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・清河寺		
所在地	埼玉県さいたま市西区清河寺1088-6		
自己評価作成日	平成28年10月5日	評価結果市町村受理日	平成29年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/11/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	平成28年11月4日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者様、個々の個性を引き出せる様々々なレクリエーションを日々実施しております。又個別の運動や体操を取り入れ自立した生活を続けていける様支援しております。日々の業務に追われる事もありますが、入居者様とのコミュニケーションを大切にし会話を多く持つ様努めております。ご家族様が面会に来られた際には、近況を報告しご家族様との信頼関係を築ける様努めております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・職員間のコミュニケーションがよく、何事も職員同士で相談し合いながら、課題の解決に向けた話し合いがなされている。また、職員は利用者たくさん話をして利用者の気持ちや思いを把握することに努められ、ケアの工夫で転倒や怪我などの危険が防止されている。  
 ・ご家族のアンケートでも「本人の話はもちろんのこと、家族の話もよく聞いてくれる。こちらに入所してから本当に元気になりました」、「どの職員さんも、利用者とその家族について顧客意識を持っており、接遇も良いと思う」とコメントが寄せられ、職員の対応に感謝し、十分に満足している様子が伺える。  
 ・目標達成計画の達成状況については、事業所理念を深めるために職員会議で話し合い、職員間で理念への理解と意識高揚が高められたことから、目標が達成されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑顔で溢れるアットホームな環境を提供する』を事業所理念に挙げ、入居者様とのコミュニケーションを大切に毎日笑顔を引き出せる様努めています。	利用者一人一人が居づらい思いをせず、笑顔で過ごして頂ける介護を目指し、家庭的な環境作りと利用者目線を大切にしたケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はありませんが、散歩の際にご挨拶を交わしたりお祭りなどのイベントの際には、ご近所の方をお招きしております。又自治会に加入している為神輿の立ち寄りがあります。	地域のお祭りに参加されたり、七夕では近所からいただいた笹に短冊や七夕飾りを付けるなど、地域とのふれあいを大切に交流に努められている。今後はもっと顔見知りの関係を深めたいと方法を模索されている。	ボランティアの訪問や地域活動など、外へ目を向けた取り組みを行うことで利用者と地域住民の絆がより深められることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方などホームの行事にお呼びし、認知症の理解、また支援についてお話しさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回地域包括やご家族様参加の下定期的で開催している。ご家族様同士、談話する時間を設け支援への意見等サービスに反映させている。	事業所の活動報告や利用者の状況などを中心に2ヶ月に1回、開催されている。参加者が少ないことを課題とされ、今後は行政にも声をかけ、様々な意見を事業所運営に反映させたいと取り組み方法を検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加も働きかけている。	市へは更新申請や報告の都度出向き、担当者顔を合わせる機会を持たれている。グループホーム会議や生活保護担当者との連携もあるが、今後は運営推進会議へ参加をいただき、より良好な関係作りに努めたいと考えられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行っていないか毎月の会議で話し合いを行い、職員全員が正しく理解できる様取り組んでいる。	毎月、職員会議で研修を実施し、身体拘束についての職員理解は深められている。例えば、車椅子から立ち上がろうとされる利用者には、職員が話しかけ、気を紛らわすなど工夫した取り組みで、身体拘束を行わないケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が無い様職員全員が、正しいケアが行えているか確認し意見交換を行っている。フロア会議では、最近の虐待ニュース等報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に自己啓発として日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修に参加している職員もいる。その際ユニット会議等で報告する事で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な時間を設け説明し、疑問も伺い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会でご家族様の意見や普段面会時に頂いた意見を月1回職場会議にて報告している。参加出来なかった職員にも会議録にて全職員が周知する様にしている。意見箱もホームの入口に設置している。	利用者については、職員がよく声をかけ、意見や要望を聴き取られている。家族からは、食事形態や洗濯物の洗い方などのほか、備品の購入や修理など環境整備の関心ごとなどにも応えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職場会議を実施している。又ユニット会議も月1回実施し職員同士の意見交換を行っている。	利用者のケア方法は、必ず職員間で話し合わせ共有がなされている。センサーを利用している利用者が、センサーの音がうるさくて眠れないことから、アラーム部分を職員室に置くことで熟睡できるようになるなど、職員意見を尊重されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が得意分野で自分を活かし活躍できる環境を作っている。又人事評価を行い職員の評価を適正に行える様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	掲示板を利用し様々な研修を掲示している。月1回のフロア会議では、身体介護の実践も行うトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の研修を通し名刺交換をするなどネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日入居者様とコミュニケーションを多くとる事で信頼関係を築いているので、不安・要望がある際には解決できる様心掛けています。又ユニット会議で担当者が責任を持って問題点等提案しカンファレンスを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時から時間を掛けてご家族様との関係作りに力を入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に実調査を行い、暫定プランを作成し職員同士ケアの統一を図り、的確なサービスが提供できる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がご本人様との生活を一緒に考え家事等役割意識を持って頂きやりがいを見つけ頂く様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の生活等ご家族様に面会時や電話でお伝えしご家族様も一緒に考え、ケアの方向性を見出しご本人様に良い支援方法を考え提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に自由にお越しいただける様配慮しご家族様同様丁寧な対応に努め支援している。	会社の同僚や以前住んでいた近所の方の訪問、また、テレビで見た馴染みの場所を話題に話が弾んだり、趣味の編み物やベランダで花や植木を育てるなど、今まで続けてこられた楽しみが継続できるように支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席に配慮し、入居者様同士会話を持てる様に配慮している。又会話の少ない方は、職員が言葉の掛け渡しをし孤立しない様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後転居となった場所まで出向き面会し、必要に応じ相談を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日コミュニケーションを多くとる事で表情や、行動からご本人様の希望、意向を把握する様努めている。困難な場合は、カンファレンスを実施しケアの方向性を見出している。	利用者の興味や関心ごとを探り、たくさん話をすることで思いを汲み取られている。気持ちをうまく伝えられない利用者とは日々の何気ない会話や日常生活から確認され、故郷の話や好きな歌を唄うなど笑顔のある日々を送られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の状況等実調調査で得た情報やご本人様、ご家族様から直接得た情報を職員全員が周知し、これまでと変わらない生活を送れる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、生活記録、特記事項、連絡ノート等記録を用いて入居者様の把握に努めている。ささいな変化も記載し職員全員が情報共有できる様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様からサービスの評価を頂き、個々にカンファレンスを行う時間を設け意見、要望を反映した介護計画書を作成している。	利用者、家族からいただいた要望は、そのままの言葉で介護計画に載せ、具体的な支援方法が記入されている。排泄の失敗が多くなった利用者の要因や対応方法も話し合わせ、介護計画の見直しに繋がられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、生活記録、特記事項、連絡ノート、サービス実施表などの記録を用いて入居者様の把握に努めカンファレンスを行う事で介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない様職員1人1人、意見を上げ話し合う事で柔軟にサービスに取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園やホームセンター等地域資源を使用し買い物や散歩など外出する機会を増やしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医、医療連携看護師、歯科医、歯科衛生士、薬剤師等協力体制はできている。必要に応じて関わる医療機関全てに情報を提供し支えるシステムができている。入居時かかりつけ医がある場合は継続受診できる様支援している。	経過観察のため定期的に通院される利用者や専門医を受診される利用者とは、連絡ノートを用いて情報を共有されている。看護師の訪問では、皮膚状態や排便コントロールも行われ、安心できる医療体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回医療連携看護師がきている為個々に看てもらっている。又ノートに相談や指示内容を記載し記録を残している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医より診療情報提供書を出してもらい情報交換を行っている。協力機関の病院のSWとも連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し医療が必要になった場合には、会社内の特定施設への転居を勧めている。又医療が必要ではない方の終末期はどの様にしていきたいかご家族様に要望を伺っている。	重度化や終末期に備えて知識や技術を高め、連携に向けた体制を作ることが課題ではあるが、看取りが困難な状況であっても、医師や家族と相談し、他施設を紹介されるなど事業所として最善の方法で支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり職員は熟知し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しています。内1回は消防立ち合いにて夜間想定での避難訓練を実施し緊急時職員が敏速に動ける様努めている。	夜間を想定した訓練が実施されている。避難経路や避難場所の確認、避難の順番や点呼をしながら安否確認を行うなど実践されている。職員の役割分担を定め、特に2階・3階の車いす利用者の安全な避難方法を課題とされている。	災害はいつ発生するかわかりませんが、職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、今後は自治会の防災訓練への参加や、地域の方々と合同で避難訓練を実施されることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴介助や排泄介助時は、羞恥心に配慮しプライバシーを保護している。1人1人会話を持つ時間を設け傾聴し人格を尊重している。	利用者の自己決定を大切にし、職員は利用者の目を見て静かに話すことを心掛けている。呼び方や言葉使いも馴れ合いにならないように注意し、また、利用者の前で他の利用者の話をしないなど、個人情報への配慮もなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を挙げ自己決定できる環境作りをしている。コミュニケーションを多く取り信頼関係を築き思いや希望を表わせる様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全員が1人1人のペースを大切にし何かを行う際には、必ず入居者様の意思を伺い実施している。庭へは職員の見守のもと出入りできるようにし解放された環境を提供できる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容にてご自分で髪型を決めて頂ける様配慮している。その際希望によりパーマや染髪を希望によりされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人お盆にのせ食事を提供している。食器を持ちづらい方には取っ手のついた食器にする等自立した食事ができる様配慮している。下膳や食器拭き、テーブル拭き等手伝って頂いている。	庭で昼食会、屋上でバーベキュー大会なども楽しまれている。また、庭でとれたじゃがいもを使って芋餅を作ったり、マクナルドや寿司、インスタントラーメンなど利用者の希望を活かした食事も提供されているほか、利用者の状態に応じた食事で、口から食べることを大切にした支援に取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養は、専門の栄養士により献立は決まっているが、嚥下低下している方は、食事形態を考慮し提供し食事摂取量が確保できる様にしている。水分摂取量も記録し脱水にならない様補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に口腔ケアを行っている。歯科医、歯科衛生士にアドバイスをもらい実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方も出来る事はご自分で行って頂き、全介助にならない様努めている。又ポータブルトイレからトイレでの排泄への切り替え等カンファレンスで検討し自立に向けた支援をしている。	常に利用者の様子を確認し、トイレが頻回な利用者は往診医と相談されるなど、一人ひとりに合ったケアに努め、「お手伝いしましょうか？」と声をかけ、羞恥心にも配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や適度な運動、水分補給を行う事で蠕動運動を活性化できる様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を特に決めていなく、ご本人様に合わせ入浴して頂いている。	職員複数での対応やシャワー浴など身体状態に合わせて安全に入浴が行えるように支援がなされている。また、重度化しても安心して入浴が楽しめるようにリフト浴も準備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	同じ時間帯に入眠を促さず、共有スペースでテレビや談話し過ごす方、自室で過ごす方と1人1人のペースに合わせた時間を過ごして頂いている。快適な環境を提供できる様室温にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を用いて内服薬の確認、何日まで処方されているか確認出来る様にしている。又新しく追加された薬については連絡ノートに記載し情報共有している。又減薬についてもDrに相談し調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に力を活かせる様掃除、洗濯畳み、食器拭き等役割を持って頂いている。歌、散歩、体操等行い気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日時は決めず天気の良い日には、外出が好きな方はお声掛けし散歩に出かけています。庭へは職員の見守りのもと出入り出来るようにし日光浴を楽しまれています。ご家族様に協力して頂き定期通院時外食される方もいます。	利用者の重度化で外出が難しくなっているが、花の丘公園、丸山公園など、出かける機会を作られている。また、駐車場や庭先で食事会や散歩、日向ぼっこなど利用者にとってよりよい方法で支援に努められている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金は、ホームで預らせて頂いていますが、小銭は持たれている方もおり、自販機で飲料を購入する方もいる。又希望により日常生活品等購入でお金を使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望がある場合にはご家族様への電話や手紙は自由に出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音、匂い等無くし安心して過ごせる様整理整頓を心掛け掃除チェック表を作り環境を整えている。季節毎にホール内の飾り付けを変え外出する機会が少ない方にも季節を感じて頂ける様努めている。	リビングは、塗り絵やちぎり絵などの作品が飾られ、訪問者を和ませてくれている。また、プロジェクターで映画鑑賞も楽しまれている。庭のプランターにはサツマイモやジャガイモ、色とりどりの花々が植えられ、利用者が水やりをしながら生育の喜びを感じ取られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の居室の行き来に制限していない為気の合った入居者様同士居室で談話されている事もあります。又共有空間で1人になれる様廊下の離れた場所にソファを設置しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のご自分のお好きな写真や観葉植物等を置いて頂くなど個々の好みに合わせ居心地の良い環境になる様ご家族様、ご本人様と相談している。	編み物や植木の栽培など趣味活動を楽しむことができ、ベッドの位置も利用者一人ひとりの身体状態や好みに合わせ置かれている。個々の利用者のこだわりや習慣が尊重された部屋で落ち着いた暮らしが継続されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活導線に物を置かない様安全に配慮しトイレの場所がわからない方には壁にトイレの方向を示した紙を貼り自立した生活が送れる様工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームみんなの家清河寺

## 目標達成計画

作成日:平成 28年 12月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との接点が無くなってきている。	地域の方々と接点を持つ。	社会福祉協議会等と出向き、ボランティアなど受け入れるように取り組む。	10ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。